



中学部 数学科 一題材の実践事例

題材名：『附特ツアーズ』で、時刻を読んだり、状況に応じて立式や計算をしたりして、旅行プランを立てよう。

授業者：豊田 眞子

学習指導要領の段階と内容 小学部 3段階 測定

知・技：イ(ア)⑦日常生活の中で時刻を読むこと。
⑧時間の単位について知り、それらの関係を理解すること。

思・判・表：イ(イ)⑦時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活を結び付けて表現すること。

学 び：数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。

題材目標

知・技	『附特ツアーズ』で、旅行プランの日程表をつくる時、長針の動きに応じた短針の動きがわかり、模擬時計で●時▲分をつくって読む(●=1~12、▲=1~59)
思・判・表	文字で示した3つの時刻(時が異なるものも含む)のそれぞれと対応する時刻を示した時計のイラストを時系列で日程表にはる時、長針が指し示す目盛りの数値と短針が指す位置との関係について考え、3つの時刻の前後関係を判断し、3つの時計のイラストを時系列に並べる
学 び	時計のイラストを時系列に並べ、旅行プランの日程表をつくる課題に繰り返し正しく取り組む

教材と仕組み

教材名：『附特ツアーズ』

時刻を読む、●分後の時刻を求めるとして旅行のスケジュールをつくったり、旅行代金などを計算して求めることで、旅行プランが完成する仕組み。



観点別評価

知・技	『7時55分』などの文字で示された時刻を見て、模擬時計を操作してその時刻をつくり、正しく読むことができた。(●=1~12、▲=1~59)
思・判・表	3~4つの文字で示した時刻それぞれと対応する時刻を示した時計のイラストを選び、時系列に正しく並べることができた。
学 び	旅行プランの日程表をつくる課題に繰り返し正しく取り組む姿が見られた。

関連する授業づくりの手順

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

R研で毎時間の授業の評価・改善

考察

ポイント 短針が示す範囲を理解するための働きかけの工夫

①長針の動きに伴って短針が動くことがわかるように

7時22分

POINT 既に読むことができる ●時ちょうどの時刻から操作し始める

この時は...? この時は...? この時は...?

POINT 教師と一緒に長針が指す目盛りを読み進め、●時の範囲を調べる

②短針が示す範囲が視覚的にわかるように

7時

POINT ●時の範囲を塗り、自分で教具をつくる

③一人で短針を読むことができるように

教具を使う 時々使う 教具なし

POINT 段階的に支援を減らす 見ながら→近くに置いて→教具なし

ポイント 日常生活に生かすための教材の工夫

生活の中での時間の感覚を伴いながら学習を進めることができるように

読んだ時刻を活動と対応させてはり、日程表をつくる活動を取り入れる

POINT 時刻を読むだけでなく、「時間は進むもの」という感覚を養う



(例)

- 校外学習先
- 修学旅行先
- など

◎学習プリントで本時の学習を振り返る時に、生徒が自分の言葉でわかったことを記入することにより、本時の学習の理解が深まったと考える。また、わかったことを蓄積していくことで、課題解決に困った際に自分で確認することができ、粘り強く取り組む姿勢が高まったと考える。

◎グループ内で複数の領域(数と計算、測定)を扱うため、教材の決定に時間を要したが、生活場面を想定することで、同一教材(旅行プラン)で指導することができた。測定を学習する生徒は生活単元学習(日程の計画)などで指導する内容との関連が強いため、日常生活に還元できるようにしていきたい。また、数と計算を学習する生徒は、様々な指導内容の到達状況を把握し、本題材の指導内容と組み合わせることで、修学旅行を想定したお土産代などを状況に応じて求めるという課題を設定することができた。

△振り返りの場面で、互いに学習した内容や解き方を発表することはできたが、異なる領域を扱うことや学び取りの早さの違いから課題に取り組む中での学び合いの場は設定しにくかった。授業の展開や生徒の出方の想定をより具体的にしておき、問題を配列したり、答えを確かめ合う場面を決めたりしておく必要があった。

